

清潔・誠実・実行力

市議会議員 深山たかし

上尾に活力 地域力向上



議会レポート

財政問題について

○減税自治体構想は可能か

市は、毎年十二月の「広報あげお」で前年の財政公表特集を組み、「実質収支黒字」であることを強調しております。

一般的な理解では「黒字」とは「儲かっている」と誤解を招く表現です。

儲かっているならば、市民税を減税出来ないのでしょうか。

六月六日杉並区では、区予算の一割を毎年積み立て、その利子分で住民税を減税し、将来的には無税にする「減税自治体構想」に取り組み意向を明らかにしました。上尾市に於いても同構想は実現出来ないものかを

質問いたしました。

【答弁】住民の後年度負担の逓減など世代間負担の公平性の問題や、景気、金利などの経済状況の変化にどう対応していくのか、など課題は多いとの指摘がある。

杉並区では、この七月に学識経験者による研究会をスタートさせており、今後、これらの議論の動向を注視していきたいと考えている。

○「実質収支」の意味とは

実質収支とは何か、単純に言えば、収入から支出を引いた残り、繰越金です。繰越金であるならば、次年度の当初予算の貴重な財源の一部になりますので、市長が主張する実質収支「黒字」は自治体にとって

当然の現象です。

実質収支「黒字・赤字」とは、国が地方自治体を見る時のグループ分けした行政用語です。

私は、市民感情に照らし、極めて不適切な「黒字」表現の是正を強く求めていきます。

○実質収支は、翌年度にどの様に反映されていくのかを尋ねました。

例えば、平成十八年度一般会計の実質収支額は約十三億円で、平成十九年度の一般会計当初予算において繰越金として五億円を見込んで編成しています。この差額約八億円については、補正予算の財源です。

○市債（借入金）残高について

今現在、上尾市が抱える市債残高は、幾らあるのか、を質問いたしました。

【答弁】平成十八年度末における上尾市の市債残高は、普通会計で約六三四億円、公営下水道事業特別会計で

約一九二億円、水道事業会計で約一〇五億円、全体では約九三〇億円です。前年度末と比較して、約十四億円の減額となったところ。と説明がありました。莫大な借入金残高があります。

上尾市の財政運営は健全か

私は、財政問題で「上尾市の財政状況は実際のところ、どうなのか」を繰り返して質問してきましたが、明確な答弁がありません。

市民には健全財政を維持している様な広報をしていますが、一方では「財政が厳しい」と矛盾した発言もしています。

埼玉県内市町村の財政指標をみると上尾市は「義務的経費比率」が県下一高く、家計で言えば貯蓄率にあたる「財調基金比率」が県下でも低い状況で、財政は硬化化傾向にあることが分かります。全体経費の半分以上を人件費や公債費、扶助

費と言った削減が極めて難しい支出が占めています。基金が少ない為に、他の事業への資金手当も困難な状況にあります。

本年度は前年と比較して税収が約三十億円伸びています。地方交付税の減額がされていますが、基金を約二十億円取り崩さなければ当初予算をくめない状況を見ると、異常事態だと考えられます。

次世代を担う子供達に胸を張ってバトンを渡す為には、出来る限り負担を少なくし、住みやすい地域を残すことが重要です。

私は、四年間の議員活動を通して、上尾市は、実態を素直に市民に伝えていない様に感じました。

多様化する市民ニーズに対応し、未来ある上尾を実現するためには、財政基盤の拡充は必須です。

公平性と透明性を高めた情報発信、市民と情報の共有化を推進することが、急務であると私は考えております。

用語説明

義務的経費とは、地方公共団体の歳出のうち、その支出が義務付けられ任意に節約できない経費で、通常、人件費・扶助費・公債費の三つの費目をいい、極めて硬直性の強い経費といえます。

義務的経費比率とは、その義務的経費が、歳出全体に占める割合をいい、この数値が高いほど市独自の政策的予算が縮まります。

財政調整基金とは、地方自治体で収入が急に落ち込んだり、災害の発生などで出費がかさんで予算に余裕がなくなった場合に備えて積み立てておく基金。年度ごとに、予算が余ったら積み立て、足りなかつたらこの基金を取り崩して補充する。自治体の「へそくり」のような役割を持つ。自治体ごとに条例などで基金のルールを定めています。

地方自治体は、国からの地方交付税が削減されるなど厳しい財政状況の中、基金への積立金を捻出して将来の支出に備えている。

歩道橋について

市内の幹線道路には、多くの歩道橋が設置されていますが、目視した限りでは、鉄材部の腐食や塗装のはく離などが目立っていることから、災害時の倒壊等の恐れ等について質問したところ、災害時、倒壊した事例がないことから、補強工事は実施したことがないそうです。設置後三十年以上の歩道橋もあることから、定期的な塗装、修繕、補強工事を実施すべきではないかと指摘し、国県への働きかけを要望しました。



国道等の幹線道路に設置された歩道橋

二期目の活動目標

○コミュニティづくりの推進

・ 少子高齢化社会が進む中で「地域づくり」を積極的に推進します。

○見える市政の実現

・ 市からの情報は分かり難いものが多いです。
 ・ 市の説明責任の徹底を推進します。
 ・ 情報の公平性、透明性を保ち、市民の目線に立った情報発信が必要です。

○公共施設の充実

・ 図書館本館や保健センター等の既存施設が老朽化しています。不便を感じながら改修されていない施設の改善に努めます。

編集後記

施策を実現するためには、行財政改革を進める必要性を強く感じております。

市には私たちが、納めた税金が、市民の為にどの様に活用されているのかを市民に周知させる義務があります。

誰のための上尾市なのか、どこを見て市政を運営しているのか疑問を感じざるを得ません

発行元：深山たかし後援会

上尾市大字上1774-7

048(776)0575

fukayama-sov@jcom.home.ne.jp

ホームページは、検索サイト、”深山たかし”で閲覧できます。